

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : California State University, Los Angeles

留学期間 : 平成 28 年 6 月 26 日 ~ 平成 30 年 6 月中旬

なぜ留学したいのか。留学で何がしたいのか。留学先に何を求めるのか。これらの問を真摯に考えることが、留学をただの「留学経験」以上にしてくれると学びました。

最初の問への私の答は大学 4 年間への反省から発しました。「自分は大学で何も学ばなかった」。社会学部での 4 年は具体的に得るもののないただの「大学生経験」だった。

私は「社会学を学びそれを活かしてできることがある」と言えるようになりたいのに。この思いが 2 つ目の問への答、そして留学の契機になりました。

米国の大学院は研究センターの日本のそれと異なり、単位制を採用しています。この形式が、学びの補填に米国大学院進学を選んだ理由の 1 つです。また LA は私が興味のあるクィア研究および LGBTIQ 運動が世界で最も盛んな場所です。日本のどこでも LA に比類する情報は学べないでしょう。この制度と土壌が 3 つ目の問への答です。

ではなぜこれらの問が留学生に大事なのか。私の生活を簡単に紹介します。学校は California State University, Los Angeles (CSULA) という公立校で、生徒も教員も有色人種の移民が多いです。週に 3 コマ、約 10 時間の講義とゼミに参加しています。時間は少ないですが週に大抵 2 本の論文が課され、毎週レポート提出が求められます。自宅は中華街の安アパート。隣人も英語が話せない移民です。就労資格があるので週に 3 日ほど日本人街の書店で働いています。西海岸にイメージされる青空や海岸線とも、映画にある瀟洒な交流とも、クールな若者カルチャーとも無縁の生活です。けれどもこの生活が好きです。それは問への答を実行しているから、そして留学先に求めるものが簡潔だったからです。

留学は、必ず人生に転機をくれるわけでも、優れた人格と語学力を授けてくれるわけでもありません。金さえあれば誰でも行けますし、日々をただ過ごせば留学経験になります。しかし、そこから何を求めるかは自分次第です。落胆するも、楽しむも、成長するも。その成果物が前者か後者か、多いか少ないか、それを計るのがあれらの問です。思い出として海外生活がしたい、という方を否定するつもりはありません。ですが、明確な目的のない留学生の多くが現状に不満を感じる様や、無為に日々を過ごすのを見るのも事実です。何を得たいか目的と期待を明確にすることが留学ひいてはあらゆる進路を選択する指標となること、それに向かい歩みを止めないことを、この留学が教えてくれました。